

α<sub>2</sub> 作動性鎮静剤

# デクスメトミジン静注液200μg「ニプロ」および デクスメトミジン静注液200μg/50mLシリンジ「ニプロ」

## 「用法・用量」の一部変更承認取得のご案内

2025年1月  
ニプロ株式会社

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、弊社製品につきまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、α<sub>2</sub> 作動性鎮静剤『デクスメトミジン静注液 200μg「ニプロ」』および『デクスメトミジン静注液 200μg / 50mL シリンジ「ニプロ」』につきまして、2025年1月22日付で、下記のとおり「用法・用量」の一部変更承認を取得いたしましたので、ご案内申し上げます。

今後とも引き続きご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

### 【承認内容】 ※下線部分が追加されました。

効能・効果	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 集中治療における人工呼吸中及び離脱後の鎮静</li><li>○ 局所麻酔下における非挿管での手術及び処置時の鎮静</li></ul>
用法・用量	<p>〈集中治療における人工呼吸中及び離脱後の鎮静〉</p> <p>通常、成人には、デクスメトミジンを6μg/kg/時の投与速度で10分間静脈内へ持続注入し（初期負荷投与）、続いて患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、維持量として0.2~0.7μg/kg/時の範囲で持続注入する（維持投与）。また、維持投与から開始することもできる。</p> <p><u>通常、6歳以上の小児には、デクスメトミジンを0.2μg/kg/時の投与速度で静脈内へ持続注入し、患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、0.2~1.0μg/kg/時の範囲で持続注入する。</u></p> <p><u>通常、修正在胎（在胎週数+出生後週数）45週以上6歳未満の小児には、デクスメトミジンを0.2μg/kg/時の投与速度で静脈内へ持続注入し、患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、0.2~1.4μg/kg/時の範囲で持続注入する。</u></p> <p>なお、患者の状態に合わせて、投与速度を適宜減速すること。</p> <p>〈局所麻酔下における非挿管での手術及び処置時の鎮静〉</p> <p>通常、成人には、デクスメトミジンを6μg/kg/時の投与速度で10分間静脈内へ持続注入し（初期負荷投与）、続いて患者の状態に合わせて、至適鎮静レベルが得られる様、維持量として0.2~0.7μg/kg/時の範囲で持続注入する（維持投与）。なお、患者の状態に合わせて、投与速度を適宜減速すること。</p>

以上